

京都ジャーナリスト 9 条の会緊急講演会 7 月 9 日 2 時

## フクシマ原発問題の現状とテレビメディアの功罪

講師、MBS 報道局ディレクター津村健夫氏

福島原発が 311 の大地震と津波の後水素爆発を引き起こし、おそらく炉心溶融に至っていると見られながら、未だに最初のステップである「安定冷却」に達せず、放射能の漏出危険性は続いています。

原子力発電の安全神話が崩壊したことは誰の目にも明らかです。新聞、放送など、メディアが原発の危険性に対して十分な警告をしていなかったのではないかと、という批判も聞かれます。

毎日放送のドキュメンタリー制作者津村健夫ディレクターは 2008 年「なぜ警告を続けるのか、京大原子炉実験所異端の科学者たち」(映像 08)を制作しました。また 311 後も取材を続け 2011 年 6 月 26 日に映像 11 の枠で「その日の後で、フクシマとチェルノブイリの今」を放送するため、ベラルーシ、ウクライナへの取材も敢行しました。

今回は取材の中で見えた原発の危険性、この後に予想される危険性について語るとともに、原発報道を巡るメディアの状況について自らの体験を含めて報告します。

タイトル 「フクシマ原発の現状と、テレビメディアの功罪」

講師 毎日放送報道局ディレクター 津村健夫氏

日時 2011 年 7 月 9 日土曜日 午後 2 時-5 時 30 分

参加費/資料代 500 円 会員以外の参加も歓迎です

場所 京都市東山いきいき市民活動センター

〒605-0018 京都府京都市東山区花見小路古門前上巽4 5 0 075-541-5151

地下鉄東西線三条京阪下車徒歩 5 分 三条通花見小路を南に下がり最初の信号を東(左折)に南側

または花見小路通古門前上がる若松通東入る南側 / 公営住宅 13 号棟の角を東に入る

連絡先 湯浅俊彦(かもがわ出版)075-432-2934、または隅井孝雄 075-213-2451

